

## 実践報告 2

## 外国語科指導における小・中学校の接続に向けた実践

## —中学校外国語科での外国語活動教材「Hi, friends!」の活用を通して—

東浦町立西部中学校 教諭 尾崎 利奈

## 1 はじめに

2020 年度から小学校で、2021 年度から中学校で新学習指導要領が全面実施される。新学習指導要領の実施により、小学校 3 年生から外国語活動が始まり、小学校 5 年生から外国語科の授業が行われる。今後、小・中学校における外国語科指導の連携や接続が更に重要となるため、中学校の教員は、児童が中学校入学前に、外国語学習で何を学び、どのような力を身に付けてくるのか、また、特に自校の中学校区で、どのように外国語を学んだ子どもたちが入学して来るのかを知っておく必要がある。

現行の学習指導要領の下では、外国語活動の教材として、「Hi, friends! 1, 2」が各小学校で使用されている。この「Hi, friends!」で扱われている語彙や表現は、中学校の教科書で再び学習するものも多い。特に中学校第 1 学年で授業を組み立てる際に、生徒が外国語活動で慣れ親しんだ基本的な表現を把握しておけば、生徒の外国語への興味・関心を引くことができるとともに、外国語学習への抵抗感を減らすことができると思われる。

本実践では、小学校での外国語活動における学びを、中学校での外国語科の指導に生かす工夫に焦点を当て、外国語活動と外国語科の指導における円滑な接続の方法を探ることとした。

## 2 生徒の実態

本校第 1 学年 57 名に対し、5 月に小学校での外国語活動と中学校での外国語科の授業についてのアンケート調査を行った。

## ① 小学校での外国語活動は好きでしたか。

はい○	いいえ×	どちらでもない△
50.8%	21.1%	28.1%

## (主な記述)

- 英語を読んだり、ゲームをしたりして楽しかった。ALT の生の発音が聞いてよかった。  
 ×ゲームばかりでおもしろくなかった。難しいことばかりで、英語が上手く話せなかった。  
 △興味はもてたが、内容がよく分からなかった。答え方が分からないことがあった。

## ② 中学校での英語の授業は好きですか。

はい○	いいえ×	どちらでもない△
70.2%	12.3%	17.5%

## (主な記述)

- 単語の意味や発音を教えてもらえる。新しい英文を知ることができる。

×英語を読んだり書いたりすることができない。授業の進度が速い。

△楽しいけれど、書くことがめんどうだ。

③ 外国語活動から英語の授業に変わり、困ったことや戸惑ったことがあれば教えてください。

(主な記述)

- ・単語の発音や意味、綴りをきちんと覚えなくてはいけなくなった。
- ・英文の作り方が分からない。be 動詞と一般動詞の否定文や疑問文が分からない。
- ・教科書の英語を読むことが難しい。

①の質問では、「外国語活動が好きだった」と答えた生徒と「外国語活動が好きではなかった」「好きでも嫌いでもどちらでもない」と答えた生徒がおよそ同じ割合であり、中学校に入学する時点で、既に外国語学習に対する生徒の感じ方に差があることがうかがえる。また、外国語活動で行われるゲーム等の活動について、「外国語活動が好きだった」と答えた生徒は肯定的に捉えているのに対して、「外国語活動が好きではなかった」「好きでも嫌いでもどちらでもない」と答えた生徒は否定的に捉えていることが分かる。しかし、記述の内容をよく分析してみると、活動そのものを否定しているわけではなく、活動の中で言えるようになった英文について、もっと詳しく知りたかったという気持ちがあったようである。②の質問では、「中学校の英語の授業が好き」と答えた生徒は70%程と増えており、その中でも多くの生徒が単語や文法の知識を習得できることを理由に挙げている。逆に、「中学校の英語の授業が好きではない」「好きでも嫌いでもどちらでもない」と答えた約30%の生徒は、英語を読むことや書くことに対して抵抗感をもっている生徒が多く、このことは③の質問の回答からも分かる。外国語活動では、英文の意味が正確に分からなくても、その英文を口頭で言えたり、活動できたりすればよかったが、外国語科では、文構造や用法を理解し、知識を活用しながら4技能の力を身に付けることが求められることに、生徒は不安を感じているようである。

アンケート調査を実施した5月頃の授業では、生徒たちは英語での挨拶や、簡単な英語でのやり取りに身構えることなく活動していた。また、チャンツやNHK基礎英語等を用いて、聞くことや話すことを中心とした活動に意欲的に取り組んでいた。教科書のある程度まとまった英文を読んであらずじを理解する活動では、まだ英文を読むことに慣れておらず、教科書を見ながらCDを聞いたり、教員の範読を聞いたりするなど、聞いた音声を頼りに理解しようとする様子が多く見られた。さらに、比較的学力が上位の生徒であっても、単語や意味のまとまりを意識して英語を書くことは難しい様子であった。

### 3 研究の目的

小学校外国語活動で慣れ親しんだ基本的な表現を、中学校での外国語科指導に取り入れることの効果を検証し、小・中学校の外国語科指導の連携や学びの接続の在り方について考察する。

### 4 研究の仮説

研究の目的を達成するために、次のような仮説を立てて検証することとした。

仮説：新出の文法事項の学習において、小学校外国語活動で慣れ親しんだ表現を活用すれば、生徒は外国語活動での学びを基にして、知識を身に付けることができるであろう。

### 5 研究の方法

研究の仮説を検証するため、1年生の授業において次の方法で実践を行うこととした。

- (1) 中学校教科書 (NEW HORIZON 1, 以下 NH 1 と記す) で扱う文法事項と, 小学校外国語活動教材 (Hi, friends! 1, 2) で扱う基本的な表現との関連を把握する。
- (2) 把握した文法と関連表現を, 新出文法事項の導入に生かす単元構想を工夫する。
- (3) 授業実践及び事後アンケートを行い, 仮説の検証を行う。

## 6 研究の実際

(1) 中学校教科書 (NH 1) と, 小学校外国語活動教材 (Hi, friends! 1, 2) の関連 (一部抜粋)

NH 1	Hi, friends! 1		Hi, friends! 2	
	単元	表現等	単元	表現等
Unit 0	L6 What do you want?	アルファベット	L1 Do you have "a"?	アルファベット
Unit 1	L5 What do you like?	色		
Unit 2	L1 Hello!	Hello./ Hi.		
Unit 3	L4 I like apples.  L8 I study Japanese.	I like .... I don't like.... Do you like...? I study ....	L5 Let's go to Italy.	Let's....
Unit 4	L3 How many...?	複数形 How many...?		
Unit 5	L7 What's this?  L2 I'm happy. L5 What do you like ? L6 What do you want ?	What's this? It's... I'm 形容詞. What do you...? What do you...?		
Unit 6	該当なし			
Unit 7	L5 What do you like ?	What ... do you like?	L6 What time do you get up?	What time is it?
Unit 8			L5 Let's go to Italy.	It's in ....
Unit 9			L7 We are good friends.	Be.... Don't....
Unit 10			L3 I can swim.	I can (can't) .... Can you...?

中学校で新出文法として取り上げられるものの多くが, 既に小学校外国語活動で取り扱われていることが分かる。特に, 中学校1年生の1学期で学習する内容の多くを, 生徒たちは知っているか, 完全に理解していなくとも聞いたことがある状態で入学して来ることが分かる。また, 中学校では, 体系的に文法事項が配列されているのに対して, 小学校では, 単元の活動に合わせて, 必要な表現が取り扱われている。例えば, Hi, friends! 1 Lesson 9では, お気に入りのランチメニューをつくる活動の中で「What would you like? —I'd like ...」が出てくるが, 中学校で would を用いた英文を学習するのは, 3年生の中盤になる。2年生で「want + to 不定詞」と幾つかの助動詞を学習した上で, それらの学習を踏まえて指導することとなる。

## (2) 単元構想

1 単元名 Unit 5 学校の文化祭		
2 単元の目標		
<p>(1) 疑問詞 <b>what</b> で始まる疑問文や <b>be</b> 動詞＋形容詞補語を用いて、積極的に自分の知らない物などについて尋ねたり、物の性質や状態について説明したりしようとする。</p> <p>(2) 疑問詞 <b>what</b> で始まる疑問文や <b>be</b> 動詞＋形容詞補語を用いて、自分の考えや気持ちを適切に表現することができる。</p> <p>(3) 疑問詞 <b>what</b> で始まる疑問文や <b>be</b> 動詞＋形容詞補語を含んだ英文を読んで、その内容を正しく理解することができる。</p> <p>(4) 疑問詞 <b>what</b> で始まる疑問文や <b>be</b> 動詞＋形容詞補語の用法を正しく理解することができる。また、世界の食文化の違いについて正しく理解することができる。</p>		
3 学習の計画（7時間完了）		
時間	各時間の学習課題	各時間の主な学習活動・評価
第1時	Part 1-1 疑問詞 <b>what</b> で始まる疑問文( <b>be</b> 動詞)について学習する。 ・自分が知らない物について尋ねよう。	・ <b>What is...?</b> の疑問文を用いて、自分が知らない物について尋ねようとする。 【関心・意欲・態度】 ・ <b>What is...?</b> の疑問文の形・意味・用法を知る。 【知識・理解】
第2時	Part 1-2 文化祭での光太とディーパの会話を読み取る。 ・ディーパの質問と、質問している理由を考えよう。	・ <b>What is...?</b> の疑問文を含んだ英文の内容を読み取る。 【知識・理解】
第3時	Part 2-1 <b>be</b> 動詞＋形容詞補語について学習する。 ・教科やスポーツなどについて感想を言おう。	・ <b>be</b> 動詞＋形容詞補語を用いた対話活動に取り組む。 【表現】 ・ <b>be</b> 動詞＋形容詞補語の形・意味・用法を知る。 【知識・理解】
第4時	Part 2-2 文化祭での光太とディーパの会話を読み取る。 ・日本とインドのカレーの違いを見つけよう。	・ <b>be</b> 動詞＋形容詞補語を含んだ英文の内容を読み取る。 【知識・理解】
第5時	Part 3-1 疑問詞 <b>what</b> で始まる疑問文(一般動詞)について学習する。 ・クラスの中で調査活動をしよう。	・ <b>What do you ...?</b> の疑問文を用いて、友達の好きなこと等について尋ねようとする。 【関心・意欲・態度】 ・ <b>What do you...?</b> の疑問文の形・意味・用法を知る。 【知識・理解】
第6時	Part 3-2 文化祭での咲とベッキーの会話を読み取る。 ・ベッキーの朝食を知ろう。	・ <b>What do you...?</b> を含んだ英文の内容を読み取る。 【知識・理解】

第7時	単元のまとめ ・学習事項をまとめ、単元テストに取り組もう。	・単元テストに取り組む。 【知識・理解】
-----	----------------------------------	----------------------

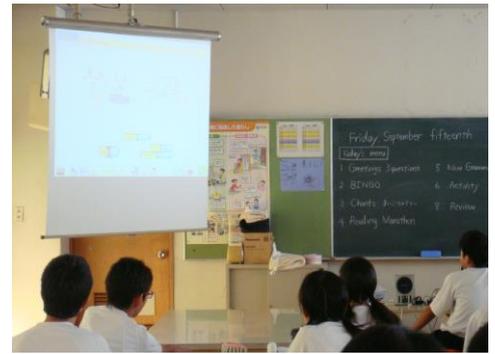
#### 4 授業のねらい

小学校での外国語活動と、中学校での教科としての英語学習の連携を図る工夫として、新出表現を学習する場面で、Hi, friends! で学んだ既習表現を導入として用いる。外国語活動で音声を中心に慣れ親しんだ表現について、文構造と使用場面についてももう一度整理することで、外国語活動で身に付けた表現の更なる定着と活用を図る。

#### (3) 授業実践の様子（第5時）

##### ア 言語材料の導入

本時に学習する新出表現 What do you ~ ? の導入として、Hi, friends! 1のLesson 6 アルファベットカードを友達とやり取りする場面をデジタル教材で導入した。デジタル教科書の表紙を見せると、生徒からは「小学校でやったことある」「5年生の教科書だ」といった言葉が聞かれた。アルファベットカードのページを見せながら、カードのやり取りをした活動について尋ねると、ほとんどの生徒がうなずきながら思い出していた。そして、メインの言語材料である、What do you want? — I want the A card. を口頭でやり取りした後、チャンツ活動に取り組み、What do you want? を用いたロールプレイの場面を視聴した。チャンツはデジタル教科書内にあるもので、英文に合わせてイラストが動き文字を介さなくとも内容が理解できるようになっている。ロールプレイの場面もデジタル教科書内にあるもので、What do you want? という表現を用いて欲しいフルーツについてやり取りをする様子を、生徒たちは理解しながら見ていた。



【言語材料の導入の様子】

##### イ 文構造についての学習

導入で用いた英文について、パワーポイントを使って文構造を整理した（資料1）。主語と動詞、疑問詞を用いた一般動詞の疑問文の語順について説明を加え、口頭練習を行った。コミュニケーション活動への導入も兼ねて、want・study・have の一般動詞を用い、質問と答え方を全員で練習した後、数人を個別に指名して、定着の度合いを確認した。

#### 【資料1 文構造についてのパワーポイント】

**Whatから始まる疑問文（一般動詞）**

**What / do you want ?**

何【疑問詞】      一般動詞の疑問文の形

**do + 主語 + 一般動詞 + ?**

**— I want the "A" card .**



【口頭練習の様子】

#### ウ 新出文構造を用いたコミュニケーション活動

クラスの友達への調査活動として、「ドラえものの道具で何が欲しいか」「毎週金曜日には何を勉強するか」「朝食として何を食べるか」についてインタビューをして、インタビューの結果をグループ内で発表させた。インタビュー活動では、事前に口頭練習を行っていたこともあり、ワークシート（p. 8 資料2）を見ながら、生徒は積極的に英語を使って活動していた。活動時間5分の間に10人にインタビューすることができた生徒もいた。グループ内でのインタビュー結果の発表は、質問事項をそれぞれの生徒が一つ選んで発表した。生徒は自分の調査結果との違いに興味をもちながら、グループの友達の発表を聞いていた。



【インタビュー活動の様子】



【グループ活動の様子】

#### (4) 事後アンケートの実施

Unit 5の単元終了後、第1学年57名に対し、英語の授業についてのアンケートを行った（平成29年9月実施）。

##### ① 英語の授業は好きですか。（5月比）

はい○	いいえ×	どちらでもない△
59.6% (-10.6%)	19.2% (+6.9%)	21.2% (+3.7%)

(主な記述)

○分かりやすくておもしろいから。

×文を作ったりすることが難しいから。単語を覚えることが難しいから。

△英語は嫌いじゃないけど、単語を覚えたり文を書いたりすることが難しいと思うから。

##### ② 『Hi, friends!』のデジタル教材を使った外国語活動の復習は分かりやすかったですか。

はい○	いいえ×	どちらでもない△
70.2%	8.7%	21.1%

(主な記述)

○小学校の時には分からなかったことが理解できたから。文法が分かったから。

×小学校のことをあまり覚えていなかったから。

△簡単すぎて、中学校の教科書だけでいいかなと思ったから。

質問項目①では、5月に行ったアンケートの結果に比べて、「好き」と答えた生徒が減少し、「いいえ」または「どちらでもない」と答えた生徒が増えている。記述回答によると、英語自体は好き

だが、単語や英文を正確に書くことが求められるということが負担となっているようである。また、単元が進んだことによって習得すべき語彙が増加するとともに、定期考査では英語を正しく書くことが求められるなど、外国語活動や中学校入学初期の学習内容との違いも大きいと言える。質問項目②では、『Hi, friends!』のデジタル教材を用いた外国語活動の復習について、70.2%の生徒が分かりやすかったと答えている。記述回答では、「いいえ」と答えた生徒は、「小学校での外国語活動の内容をあまり覚えていなかったから」と答えた生徒が多かった。また、「どちらでもない」と答えた生徒の多くは、「復習の内容が簡単すぎた」と回答した。

## 7 成果と課題

### (1) 仮説の検証

事後アンケートの質問項目②の結果から、デジタル教材を用いて小学校外国語活動の復習をしたことで、慣れ親しんだことのある英語表現が新出の文法事項の学習への心理的な負担を和らげ、生徒にとって無理のない学習となった。また、記述回答の中に、「小学校で使っていた英語が、どうしてその言葉の順番になるのかや、単語の一つ一つの意味を教えてもらえて納得できた」という意見があったことから、大変有効であったと考える。

しかし、身に付いたかどうかという点については、聞いたり話したりする活動については、意味を理解して学んだ表現を、積極的に使う姿が見られたものの、事後アンケートの質問項目①の記述からも分かるように、単語や英文のつづりを正確に「書くこと」については、生徒の苦手意識も強く、定期考査の解答でも誤りが多い。

### (2) 今後の課題

小学校外国語活動の中で、生徒が音声で慣れ親しんだ英語を文字としっかりと結び付け、正確に書く力を伸ばす指導の工夫が求められる。英語を聞いたり話したりすることはできても、それを文字で正確に書くとなると、抵抗感をもつ生徒も多い。新学習指導要領の施行により、小学校3年生から始まる外国語活動と、5年生から始まる外国語科の学習で身に付けた表現を、中学校の外国語科の指導の中で、これまで以上に「書くこと」の技能へつなげる手だてを探っていきたい。また、自校の中学校区の小学校で、どのように外国語活動や外国語科の授業が行われているのかを、授業参観等を通して把握しておく必要がある。特に、中学校区に複数の小学校がある場合は、それぞれ小学校での学習状況の違いに配慮する必要がある。

## 8 参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年3月公示
- 文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年3月公示

# ☆Survey☆

## Q1. What do you want?

	a dokodemo door 	a takekopta 	a time machine 	a honyaku konnyaku 	others
myself					
classmates					

## Q2. What do you study on Fridays?

	English 	science 	math 	nothing 	others
myself					
classmates					

## Q3. What do you have for breakfast?

	toast 	bread 	rice 	steak 	others
myself					
classmates					